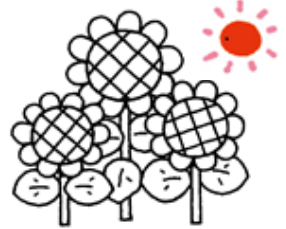


南向きの窓を開けると、道を隔てたフェンスの向こうに、大人の背丈を遥かに超えた数本のヒマワリが、一斉に太陽に向かって「まるで会話を楽しんでいるよう」な光景に出逢えます。

そんな花たちの表情に、今朝も元気をもらいました！



関東では、観測史上最も早い梅雨明けとなって、今年の夏はいつもより暑く、長くなりそうですね。

夏の車中、乳幼児の熱中症に気を付けて！！

夏休みも中盤、お盆に帰省したり、乳幼児連れのドライブ旅行を計画している方も多いと思います。

炎天下に駐車していた車の内部が、軽く 50℃を超えてしまうことは良く知られていることですね。暫く停めておいた車には、ドアや窓を開け、室温を入れ替えたうえ、確認してから子どもを乗せるようにしましょう。

そして、チャイルドシート固定用の金具も熱くなっていることがあるので、やけどに充分注意して下さい。



乳幼児は、体温を調節する器官が未発達なので、長時間のドライブではこまめに様子を見ることも大切です。

車内には水とうちわ、タオルを用意し、身体が熱くなっていたら、濡らしたタオルで首の周りを覆い、うちわであおいで気化熱を奪ってあげましょう。エアコンの風は直接あてないほうがいいそうです。

水分補給は、吸収の良い経口補水液が好ましいのですが、生後3~4ヶ月の赤ちゃんなら母乳で大丈夫。

風邪気味や、お腹の具合が悪い時、長時間の乗車で疲れている時は、熱中症のリスクが更に高まるので、充分気を付けてあげて下さい。

(Y新聞・安心の設計より)